自治連だより

第38号

年頭のあいさつ

鳥取市自治連合会
会長　土橋　周美

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、清々しい新年を穏やかにお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。

旧年中は、会員の皆様には、日頃より、それぞれの地域において自治会活動に熱心に取り組み、活力ある地域づくりにご尽力をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年は、元旦から石川県能登半島地震に見舞われた能登半島北部は、九月には能登半島豪雨により再び大きな被害を受けました。

このような災害を目の当たりにしますと、改めて地域の支えあい、助け合いの重要性を再認識させられ、町内会、自治会の果たす役割は益々大きいものと認識させられます。

近年、自治会・町内会の運営が曲がり角を迎えていると言われています。加入率の低下と高齢化による役員の担い手不足や、集合住宅を中心にした未加入者の増加などが主な原因のようです。

これらの諸課題に対処するには、地域の連帯感を深め、地域住民がお互いに手を携え、取り組んでいかなければなりません。

自治連合会といたしましても、皆様の意見をお聞きしながら、組織の強化に務めるとともに、行政との連携・協働をさらに進め、地域コミュニティ活動を活発に展開し、住民の皆様が、安全で、安心して、健やかに暮らせるまちづくりの実現を目指していきたいと考えております。

会員の皆様には、本年も自治会活動になお一層のご理解とご協力を、お願い申し上げますとともに、地域自治会の更なる発展と皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

岩倉地区

岩倉地区の活動

岩倉地区自治会
会長　山添　英明

岩倉地区自治会は十八町内会（千八百九十五世帯）と各種団体を含めた「まちづくり協議会」を中心に納涼祭やグラウンドゴルフ大会、運動会、文化祭など年間を通して多種多様な行事を行っている。そして「みんなが仲良く、協力し合って活動すること」を大切にしている。

地区公民館は子供たちから高齢者まで多くの町民が出入りし、活気に満ちている。近年では、子ども食堂の充実と岩倉の歴史を学ぶ講座は地道ではあるが定着している。防犯活動では、小学生下校時の見守り、広報車での防犯啓発活動を行い、国・県・市から表彰されていることも誇りの一つである。

岩倉地区　文化祭

近年商業施設が急速に増え、人口も増加傾向にある。

地区体育協会では、毎年各種スポーツ大会への出場、参加者も多くなり、市民体育大会など各種スポーツ大会の入賞回数も増え、優秀な成績を残している。

福祉活動では、地区社会福祉協議会、地区民生児童委員が協力し合って高齢者の皆さんに寄り添う活動に取り組んでいる。年十回の配食サービス、年四回のふれあいサービスを行い、公民館での健康講座、セミナー、健康測定などいつまでも元気で生活できるポイントを学び、最後に参加者全員で童謡唱歌を合唱しているのも評判を呼んでいる。また健康づくり推進員による年一回の健康ウオーキングもいろいろ工夫を凝らしてみんなを楽しませてくれている。

岩倉地区 健康ウオーク

子育てサークルは二十年以上継続し、若いパパママの子育て支援に役立っている。親子とも楽しそうに集い、季節ごとの行事、子育てサロンを楽しんでいる。

どこの地域でも地域活動の担い手、参加者の減少が叫ばれている。運営のやり方や新しい創意工夫での乗り切り、笑顔溢れる岩倉地区にしていきたいと考えている。

東郷地区

地域づくりは地元愛から

東郷地区区長会
会長　森田和幸

コロナ禍も落ちつき、当地区夏まつりなどの三大事業は地区民の協力を得て完全復活し、以前の賑やかさが戻った感があります。そんな中、令和六年九月に、当地区むらづくり協議会と当地区公民館主催の『ほっこり東郷八景巡り』を新しく企画したところ、地区内外の参加者から予想外のお褒めの言葉を頂き、地元スタッフ一同は大喜びでした。

本高十四号墳

企画内容は僅かな当地区の歴史文化を八景という形で絞り込んで紹介し、併せて手づくり昼食弁当をどうするかなど、最後までおもてなしを中心に協議を重ねました。

初めての企画でしたが、地元の皆さんのご協力もあり、本高十四号墳、立見峠周辺、力石、若宮さんなど、これまで情報発信したことのないスポットも紹介し、「東郷って、いつも通るところなのに、こんな素晴らしい歴史や文化があるなんて驚きました。」との声もこぼれてきました。さらに地元加工グループの主婦が心を込めてつくった昼食弁当『東郷のごっつぉう』は今回大人気で、評価も抜群でした。

地域づくりは、地元を愛する心が一番大切だと思います。Uターン増対策や空き家対策の第一歩は、まず地元ふるさとへの愛着だと思います。どんな僅かな地元野菜を材料にした弁当でも、そしてどんな小さなお地蔵さんや祠でも、地元民にとっては大切なふるさとだからです。

東郷のごっつぉう

美保地区

美保まちづくり協議会事業の在り方について

美保地区自治会
会長　山根誠吾

美保まちづくり協議会は、平成二十一年に設立され、「新春のつどい」「ジョイント・コンサート」「文化祭」等、地域住民のふれあい事業や、子ども育成事業を実施してきました。

特に文化祭は、大人から子どもまで幅広い年齢層の皆さんが出品された作品の展示や、健康相談、子育て指導、子ども茶道教室等のイベントを実施し、フリーマーケット・野菜・花苗・ピザ等の販売も行っています。

また、近年は新型コロナの感染に配慮し、会場での飲食を避けてきましたが、今年からうどんやおこわの模擬店も復活しています。

文化祭は二～三日をかけて実施しますので参加者も多く、皆さんにお楽しみ頂いていますが、「新春のつどい」「ジョイント・コンサート」等の小規模イベントは、時間的な制約やキャパシティの問題もあるため、住民全体を対象に実施する、まちづくり事業として適正と言えない様に感じており、改善を考えたいと思っています。

ジョイントコンサート

かつて地区事業は、自治会、各種団体、公民館が各々実施主体となり、分担して行ってきたと思われますが、まちづくり協議会の設置以降、組織設立の趣旨や目的が他団体と重複している部分を整理しないまま事業を進めた結果、本来の事業主体が不明瞭になっている様に思います。

何れにしても自治会、まちづくり協議会が行う事業は、組織に関わる全ての人が参加資格を持つ訳ですから、特定少数を対象とする事業は企画すべきでなく、機会均等等を考慮した事業実施と、公平・公正な予算執行を進めなければなりませんが、鳥取市のまちづくり協議会への現行補助制度では、経費的に十分な事業実施は望めません。

従って、補助金以上の事業を実施するためには住民負担を求めることになりますので、今後は費用対効果を考えて事業計画を厳選し、皆さんに喜んで頂ける事業展開をして行かなければならないと考えています。

美保地区では、自治会とまちづくり協議会が各々主催している事業を見直し、事業主体や予算を一元化して、住民の皆さんに楽しく参加して頂けるように努めて参ります。

ふれあい文化祭

富桑地区

各町内会テントを出して大運動会

富桑地区自治会
会長　水口　稔

富桑地区は、二十一町内会八百八十六戸の地区です。地区内に県道宮ノ下・十六本松線や南町・田園線が通り富桑保育園や富桑小学校があります。また、近くにはスーパーマーケットもあり住みやすい地域です。近年畑が宅地に代わり人は増えていますが、町内会への加入率は上がりません。「交流」「共感」「共生」をスローガンに掲げ富桑地区自治会が中心となり富桑地区まちづくり協議会で活動をしています。

五月の富桑地区大運動会では、校庭のトラックに沿って二十一町内会のテントを張ります。午前は、小学校の運動会です。子どもたちの競技を町内会の人は、テントから大声で応援をします。昼休みには各町内会のテントで町内のみなさんと、親子でお弁当を楽しく食べます。その後の休み時間中には地域の人と子供たちで、「富桑音頭」や「傘踊り」を踊って楽しみました。午後からは、地域の運動会です。競技順位で得点を競う町内別の競技や、特に年代別対抗リレーは、各町内が年代別に男女の選手を集めるのに苦労しています。そのためか、思いが強くテントから子供たちや町内の人が盛んに大声で応援をします。競技終了後、順位を発表し表彰して運動会を閉会します。その後、富桑公民館に集まり反省会をします。各町内そろって二十一町内会でテントを出し、運動会を続けていくことを再認識しました。

「住んでよかった富桑」を合言葉に町内会が団結して活動をしていきます。

三市姉妹交流会に参加して

令和６年度「鳥取・姫路・岡山三市の自治連合会交流会」は、さる９月26日姫路市商工会議所内の清交倶楽部にて、鳥取市自治連合会19名、姫路市連合自治会29名、岡山市連合町内会17名が集い、盛大に開催されました。

会は、姫路市連合自治会の北川会長挨拶、岡山市連合町内会の永見会長挨拶、鳥取市自治連合会の土橋会長挨拶と続き、ご来賓の清元姫路市長の三都市交流には池田家に関する歴史的経過とともに、ホットトライアングルという観光、人的交流など多方面にわたる交流がなされていることに対し謝辞と歓迎のご挨拶がありました。

研修会では、今年度交流会のメインテーマである「防災活動」について各市から事例発表が行われました。ここに各市の発表概要を紹介します。

岡山　**「皆で支えあう地域づくり」**

岡山市東区　千種学区防災会
伊永会長

地域防災計画の作成、学区内相互応援協定の策定、災害時要配慮者宅訪問活動、防災ウオーキング（夜間）を実施する。

鳥取　**「安全・安心で住みよい美保南を目指して」**

美保南地区区長会　　西原会長

防災リーダーの育成強化、浸水危険箇所の見える化、地域のまちあるきツアーを行い地域の現状把握に努める。

姫路　**「中学生等ジュニア防災リーダーの育成事業を推進」**

高浜地区連合自治会　長田会長

パンデミック下での避難所及び要支援者に配慮した訓練を主眼とし、地域の医療・福祉施設との協働体制を確立する。

以上、三市の事例を簡単に紹介しましたが、その活動内容は多岐にわたっており、この紙面ではその全貌が紹介できないのは残念です。意見交換ではそれぞれの活動に対して活発な質疑が寄せられ、災害大国に住む我々にとって大きな関心事であることが、改めて認識させられた貴重な時間でした。

その後の昼食会では、一転和やかな雰囲気で各テーブルに笑顔の花が咲きました。

昼食後は国宝「姫路城」の視察に出向き、天下無双の城の雄姿に圧倒され、一路帰途につきました。初めての参加でしたが、会長をはじめ役員及び事務局各位のおかげで有意義な会となりましたことをご報告いたします。次年度は岡山市で開催されるとのこと。多くの会長さんのご参加をお待ちしています。

（鳥取市自治連合会副会長　稲田宗万）

鳥取市自治連合会結成50周年記念事業

■開催年月日：令和６年７月６日（土）
■場　　　所：ホテルニューオータニ鳥取
■特 別 講 演：鳥取県立美術館 館長 尾﨑 信一郎氏 「県立美術館は地域のために何ができるか」

昭和49年に発足した鳥取市自治連合会は昨年50年の節目を迎え、亀井副知事、深澤市長、西村市議会議長のご臨席をはじめ、特別功労感謝状受賞者、各地区自治会長など100人を超える皆様にご出席いただき、結成50周年記念式典を盛大に開催しました。また、式典後の祝賀会では「ふくべ砂神太鼓」「国府町因幡の傘踊り保存会鳥取市役所チーム」の皆様に花を添えていただき、盛会のうちに終了することができました。

この事業を実行するに際し、関係者の皆様ならびに各地区自治会様には多大なるご協力をいただき、紙面をお借りして御礼申し上げます。

自治連合会が歩んで来ました50年の歴史に先人たちの苦難を想い、現在があることを私たちは忘れることなく更なる活動へと思いを馳せる次第であります。

鳥取市は人口の減少が慢性化しており、合併当時約200,000人の人口が現在約179,000人と、大幅な減少により町内会への加入世帯が減少しています。

他県の自治組織との研修交流会でいつも感じることは、やはり鳥取市における町内会加入率が年々減少傾向にあることで、町内会加入促進活動が自治連合会の役割と再認識され、鳥取市自治連合会の最重要課題として取り組まれています。

自治連合会の取り組みに関し、地区長さん、町内会長さんのご協力をいただき、鳥取市自治連合会の更なる発展を切望し、50周年記念事業の報告といたします。

（結成50周年特別委員会
委員長　西原　牧夫）

韓国
訪問団来鳥

友好交流30周年記念 両県道自治会意見交換会

令和６年11月９日鳥取ワシントンホテルにおいて、鳥取県と韓国江原（カンウォン）特別自治道との友好交流30周年を記念して、両県道の自治会による意見交換会が開催されました。

開催にあたり池上祥子鳥取県統轄監よりご挨拶があり、続いて江原（カンウォン）特別自治道里・統長連合会ジョン・ヨンロク会長よりご挨拶いただきました。

鳥取市自治連合会からは、土橋会長、西原副会長、森田副会長、稲田副会長の４名が参加いたしました。土橋会長から鳥取市自治連合会の概要と取り組みについて発表、続いて統長連合会ジョン・ヨンロク会長より、連合会の取り組みについての発表があり、課題として少子化・高齢化・地方消滅が挙げられ、我々と同じような悩みを持たれている事がわかりました。

その後、金鎮台（キムジンテ）江原（カンウォン）特別自治道知事のご挨拶があり、続いて江原（カンウォン）特別自治道・統長連合会から、鳥取市自治連合会へ相互交流の活性化に係る提案書を受け取りました。

最後に、「友好交流パフォーマンス」として、交流の発展や未来に向けた展望に関するキーワードが日本語と韓国語で書かれたパネルを読み上げながら、紐にかけていき江原（カンウォン）特別自治道と鳥取県の協力と発展を象徴するパネルが完成し意見交換会が終了致しました。

福井キャッチフレーズ
『地味にすごい福井』

令和６年度
全国自治会連合会福井県福井大会に参加して

令和６年度全国自治会連合会福井県福井大会が11月13日、フェニックス・プラザ、エルピス大ホールにて行われました。北は北海道から南は沖縄まで、全国より約1,017名が参加し、鳥取県自治会連合会からも７名が参加しました。

式典では、実行委員長の山崎栄一福井県自治会連合会会長が開会のことばを述べられ、続いて岩崎正朔全国自治会連合会会長が挨拶をされました。杉本達治福井県知事の挨拶、西行茂福井市長の挨拶に続き、地元選出の稲田朋美衆議院議員も挨拶されました。

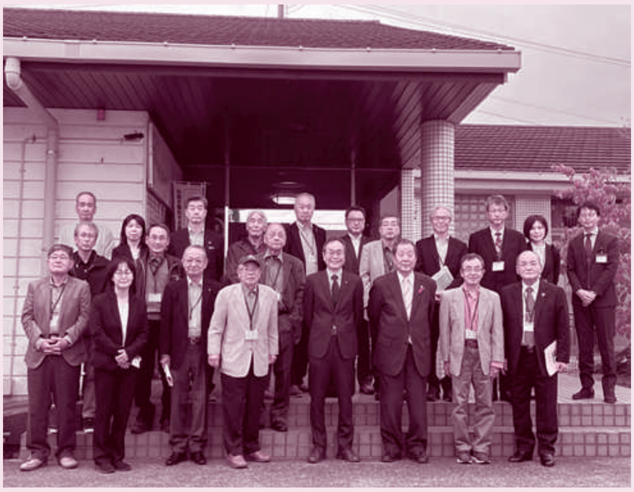
稲田衆議院議員は、大会挨拶が終わった後も懇親会に同席され、最後まで出席者に寄り添う姿が見られました。

大会宣言(案)が鈴木公至全国自治会連合会副会長から読み上げられ、満場一致で採択されました。続いて、全国自治会連合会会長表彰が行われ、96名が受賞されました。鳥取県からは、高野和男米子市自治連合会副会長と森田松雄鳥取市自治連合会副会長の２名が受賞しました。また、叙勲受章者では全国自治会連合会推薦の令和５年秋と令和６年春の受賞者、13名も発表されました。

活動発表では、福井市日之出地区のウィークデー防災訓練の取り組みが発表されました。また、杉本達治福井県知事自らが次のような発表をされました。『幸福度日本一の福井』・『北陸新幹線県内開業の効果』・『自治会活動について』。特に自治会活動については、『自治会の加入率・自治会活動における負担・福井県の自治会に対する支援メニュー・県と市町が協働し持続的な自治会運営を実現』等パネルで説明され、県のトップが自治会活動に力を入れている様子が、よく分かりました。

（文責　森田松雄）

令和６年度
先進地研修視察報告



10月31日、土橋会長以下19名が海を越えて香川県を訪問し、丸亀市（人口107,800人）や川西地区（同市内17地区の一つ、人口6,700人）の活動状況をお聞きし、意見交換を行いました。

視察先の川西コミュニティセンターでは、地区の自主防災活動を中心に川西地区地域づくり推進協議会の岩崎会長（丸亀市連合自治会長兼務）から説明をいただきました。（（注）同市では、各地区公民館を地域住民の活動拠点として積極的に活用するため、公民館を「コミュニティセンター」という名称に移行。）

コミュニティ組織は、鳥取市における「まちづくり協議会」に相当する体制の様に理解しましたが、限られた時間もあり、コミュニティ組織の防災部と自主防災会、また、コミュニティ自治会と通常の自治会との関係性や役割分担等については詳細な理解にまで至りませんでした。

しかしながら、コミュニティ自治会独自の会費徴収や企業からの経済的支援の仕組み、入会者限定のパスポート発行（市内商業施設の割引きサービスに加え、大規模災害時に緊急物資の優先受領権の特典あり）による加入促進策など独自の取り組みが加入率向上に大きく寄与しているとの説明には驚きがありました。

他の自治会での実現性は別として、従来の自治会活動の枠を超えた柔軟な発想は、今後の地域活動を考える上で大きな示唆に富む内容だと思われました。

また、コミュニティセンター敷地内に設置された多数の倉庫と資機材が整然と並ぶ様子も防災活動の充実ぶりをうかがわせ、これらを支えるリーダーや地区住民の不断の努力に対し敬意を表したいと思う先進地視察でした。　（文責：石本昭雄）

編集後記

昨年の気象現象は非常に厳しいものでした。能登半島では、元旦に地震があり、九月には豪雨が発生しました。地震や豪雨により被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。また昨年は、夏の暑さがいつまでも続き、十一月に入ると急に寒くなり、秋が無いような気候が続きました。気温の変化に身体がついて行きません。これから、益々寒さが厳しくなるものと思われます。体調管理には、十分ご注意ください。

（広報委員長　森田　松雄）

鳥取市自治連合会事務局／鳥取市高齢者福祉センター内／〒680-0845 鳥取市富安2丁目104-1／TEL(0857)20-0100・FAX(0857)20-0141／http://chiiki.city.tottori.tottori.jp/tottori-jichiren